



台帳番号：1-021-01	作品名：《初夏の風》
制作年：1926（大正15）年	技法：木版多色刷 紙
画面寸法：22.8×34.9cm	紙面寸法：24.7×37.1cm
出品歴：第5回国画創作協会展（1926年）、『HANGA』第9・10輯（複製）	
<p>作品の概要：</p> <p>自身の体験に基づく詩と絵を、同一画面に収めている点に特徴があり、創作の過程において、ボッティチェリの《ヴィーナスの誕生》が指摘されている。棟方志功が展覧会会場で本作を見て、感銘を受け、版画家になるきっかけとなった。</p>	
<p>主な参考文献：</p> <p>川上澄生美術館『鹿沼市立川上澄生美術館 開館記念特別展 若き日の川上澄生』鹿沼市立川上澄生美術館 1992年、小林利延著『評伝 川上澄生』下野新聞社 2004年、棟方志功著『板極道』中央公論社 1976年</p>	
<p>備考：</p> <p>《初夏の風》は鹿沼市立川上澄生美術館で毎年4月下旬から6月上旬にかけて展示。</p>	